ＭＲＩ検査に関する説明書

長野市民病院

患者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿様

代理人＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿続柄（　　）様

予定検査＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿検査日時＿＿＿＿＿＿＿＿年　月　日　時　分

造影検査＿＿＿＿有り・無し＿＿＿＿＿＿

あなたが現在受診中、または疑われている病気の診断のため、上記のMRI検査が有用と考えられます。この検査により、病気の発見やその性質の把握がより正確となり、適切な治療方針の決定に役立つと考えられます。MRI以外の検査でもある程度の診断が可能なことは多いですが、診断が不正確になったり、MRI以外では診断が困難となることもあります。

造影MRI検査では、造影剤を使用しない単純MRIを撮像した後、引き続いて造影剤を静脈から注射をして、適切なタイミングでさらにMRIを撮像をします。検査に使用するMRI装置は、定期的なメンテナンスを行い、扱う技師も細心の注意を払って検査に望んでおりますが、極めてまれに、装置や設定の不具合により、検査が不十分となり、再検査が必要になることもあります。

腹部のMRI検査では、専用の消化管造影剤を検査直前に服用して検査をすることがあります。また、よりよい画像を得るために、消化管の動きを抑える注射を検査前にすることがあります。

MRI検査の偶発症

1: MRI検査は、非常に強い磁石の中で、体に強い電波を当てることで体内を画像化して調べる検査です。体内に人工の金属が含まれている場合、これらが動いて体を傷つけたり、熱を発してやけどを起こしたりすることがあります。また歯科インプラントなどの磁石を使用した器具が強い磁場の影響で、使用できなくなることがあります。

2: 心臓ペースメーカーや埋め込み型除細動器、脳・脊髄刺激装置や人工内耳などの、刺激装置を使用している場合は、誤作動による障害を起こす恐れがあり、特別な場合を除き、検査ができません。

3: 狭い空間が苦手な閉所恐怖症の方は検査ができないことがあります。

4: 検査中にからだが少し発熱することがあります。全身状態が著しく不良な方や、発汗障害により、体温調節に異常のある方は十分な検査ができないことがあります。

5: 妊娠初期の胎児に影響を及ぼすことがあため、妊娠4週から16週の間は検査を受けることができません。

造影MRI検査の偶発症

1: 造影剤の注入は急速に行うため、注射の部位に痛みや漏れを生じることがまれにあります。多量の漏れが生じた場合には、治療処置が必要になることがあります。

2: およそ５０人に１人（2%）の確率で、治療の必要のない軽い副作用として、吐き気や動悸、頭痛、かゆみや発疹などが起こります。

3: およそ１０００人に１人（0.1%）未満の確率で、呼吸困難、意識障害、血圧低下、ショックといった、重い副作用が報告されています。このような症状が起こった場合に備えて、救急設備や、人員を十分に配置し、症状に応じた最善の処置を行います。極めてまれで、頻度は不明ですが、様々な処置や治療にも関わらず、副作用による死亡例も報告されています。

4: 副作用のほとんどは造影剤の注射直後に起こりますが、まれに３０分から１週間の間に、吐き気や頭痛、発疹などが起こることもあります。多くは一時的ですが、症状が続いたり、心配なときは、病院へご連絡ください。連絡先：長野市民病院　℡ 026-295-1199　各科外来または救急センター

5: 腎機能が著しく低下している場合や、短期間に頻回の造影検査を繰り返した場合に、まれに腎性全身性線維症と呼ばれる重篤な副作用が起こることがあります。

6: 消化管造影剤を服用した場合、軟便や下痢、腹痛を起こすことがあります。

MRI検査及び造影剤副作用の予測と予防

1: MRI検査や、造影剤による副作用の危険度を知る目的で、別紙のチェックリストで判定し、必要に応じて、造影剤の使用や、検査自体を中止したり、検査前にお薬を使用したりすることがあります。

2: 検査の直前に再度内容を確認させて頂いたり、血液検査を追加することがあります。判定の変更により、造影検査や、MRI検査自体を中止する必要が生じることもあります。

検査中は常に看護師や放射線技師が見守っています。緊急対応のための設備や連絡体制も整えて、常に安全な検査を心がけておりますが、何か不明な点や質問がありましたら、遠慮なくご連絡ください。

連絡先：長野市民病院　℡ 026-295-1199　各科外来または画像診断部CT検査室